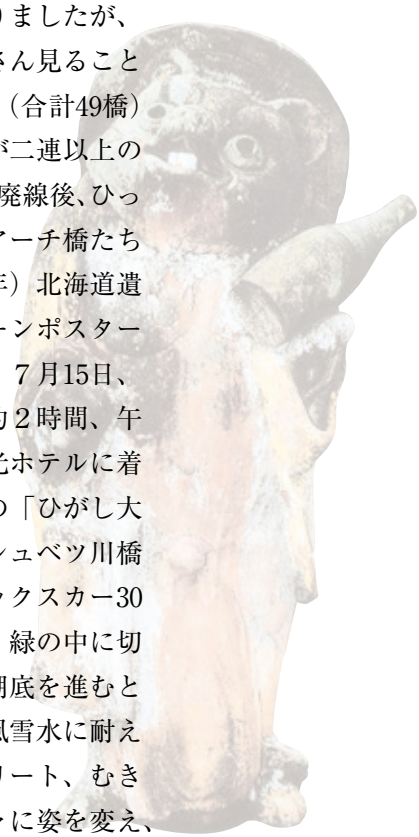
千刈狸の呟き

～ ケーブルカー「もぐら号」と タウシュベツ川橋梁 ～

旅好き狸

５月３日、鉄道おたくながら、車で、青森県の津軽線「津軽二股駅」、並んだ北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」を経由して竜飛崎の青函トンネル記念館（道の駅みんまや併設）に到着しました。秋田から遠い竜飛です。映画「海峡」をご存知の方もおられると思います。高倉　健主演の1982年10月16日に公開された、青函連絡船洞爺丸事故から約30年にわたり青函トンネルの工事に執念を燃やす国鉄技師らの苦労の物語を描いた映画です。ちなみに青函トンネルは1988年３月13日に開通した約54kmの海底トンネルです。現在、主に新幹線が通って25分で通過しますので、長い歴史を知る由もありません。過去には工事の拠点であるトンネル内部、海底より深い地下に駅（本州側の竜飛海底駅、北海道側の吉岡海底駅）があり、見学できました。現在は青函トンネル記念館として、本州側で、地上から海面下140mに「体験坑道」があり、ケーブルカー「青函トンネル竜飛斜坑線もぐら号」で斜度14度の斜坑（工事に使われた坑道）を通り、７分で到着します。

30年前、竜飛海底駅を家族と体験した私は、「もぐら号」（テレビで時々コマーシャルされていました）をチャレンジしたいと思っておりました。今年はじめ、ネットで「もぐら号」廃止の危機を知り、危惧しておりました。その後、クラウドファンディングが開始され、予想以上の資金が集まり、「もぐら号」の継続が決まりました。夕方の最後の便に乗車できました。地上から「もぐら号」で海底駅に降り、地下を歩き、工事の苦労を垣間見て、鉄道好きしか分からない感激、30年前の思い出に浸りました。この日のもぐら号乗車は511人、過去３年の１日乗車数で１番だったとのことでした。青函トンネルは開通して35年、多くの難題を抱えています。また青函トンネル記念館も同様に維持は難しいとの実感でした。ただ先人の努力の結晶を鉄道遺産として継承したいものだと切望します。残念ながら、９月11日の検査で、車枠に亀裂がわかり、「もぐら号」は運休となっております。近くには竜飛岬灯台、「津軽海峡・冬景色」の歌の流れる歌碑、階段国道339号などがあります。強風（土産物のご婦人はこれがないと竜飛でないと）の竜飛岬で、映画「海峡」で、自殺をはかる吉永小百合を取り押さえる高倉　健のシーンが回想されました。

某製薬メーカーの情報誌の表紙に「雪の中の朽ち果てた橋」を見つけ、「タウシュベツ川橋梁」で、北海道帯広の糠平（ぬかびら）湖にあると知り、高校生の時に行った糠平湖が懐かしく、行きたくなりました。以下資料からの引用です。日本国有鉄道士幌線（1987年（昭和62年）廃線）が1939年（昭和14年）に十勝三股駅まで開通した際に、北海道上士幌町の音更川の支流であるタウシュベツ川に架けられたコンクリート製アーチ橋です。工事費を安くするために、現地で採れる砂利や砂を使って作ることができ、音更川の渓谷美に似合ったコンクリートアーチ橋（めがね橋）をかけることになりました。

1955年（昭和30年）に、水力発電用人造ダム湖である糠平ダムが建設され、橋梁周辺が湖底に沈むことになったため、士幌線は湖を避けるように新線が建設され、切り替えられました。その際に、橋梁上の線路は撤去されたものの、橋梁自体は湖の中に残されることとなり、現在までその姿を留めています。糠平湖は、季節や発電によって水位が劇的に変化するため、橋梁全体が水没してしまう時期もあれば、水位が低くなって橋梁全体が見渡せる時期もあります。その様子から、「幻の橋」とも呼ばれています。廃線となった士幌線跡地は、十勝平野ではほとんど分からなくなりましたが、糠平の山林には士幌線の遺構をたくさん見ることができます。戦前に29橋、戦後20橋（合計49橋）のアーチ橋が作られ、現在もアーチが二連以上の大型のアーチ橋が12橋残っています。廃線後、ひっそりと森の中に佇んでいた士幌線のアーチ橋たちは、46年知られず、2001年（平成13年）北海道遺産に選定され、2008年のJRのフルムーンポスターがブレークの引きがねとなりました。７月15日、新千歳空港経由で帯広、路線バスで約２時間、午後７時にぬかびら源泉郷、糠平館観光ホテルに着きました。翌朝５時30分から２時間の「ひがし大雪自然ガイドセンター主催の「タウシュベツ川橋梁ツアー」に参加しました。ワンボックスカー30分で散策口へ。今年は水量が少なく、緑の中に切株が点在し、間近で鹿が遊ぶ、糠平湖底を進むと橋梁が眼に入ってきました。長年の風雪水に耐えた橋梁、風化し、崩れかけるコンクリート、むきだしの鉄骨が歴史を感じました。徐々に姿を変え、朽ち果てるのであろう橋梁は周囲の緑とマッチし、絶景でした。木々に覆われてわからない跡地を、説明を聞き、確認しつつ、散策口へ戻りました。当時の列車で楽しむ人の姿を想像しました。帰りのバスの到着まで、ぬかびら源泉郷を散策しました。糠平駅跡地の「上士幌町鉄道資料館」では旧士幌線の歴史、「ひがし大雪自然館」では子供から大人まで楽しめる、豊富な東大雪の自然、動植物の資料を楽しみました。高校時代宿泊したホテル（大雪グランドホテル？）は今はなく、宿泊したホテルは老朽化しており、宿も少なく、今後の不安を持ちながら、次回、アーチ橋とひがし大雪自然をゆっくり楽しめる時間が持てたらと後にしました。